

# 企業間決済の常識を破る POファイナンス®の導入モデル紹介

本誌3月号で紹介した、企業間決済の新たなツールとして注目されている「POファイナンス®」の具体的な導入モデルについて紹介します。

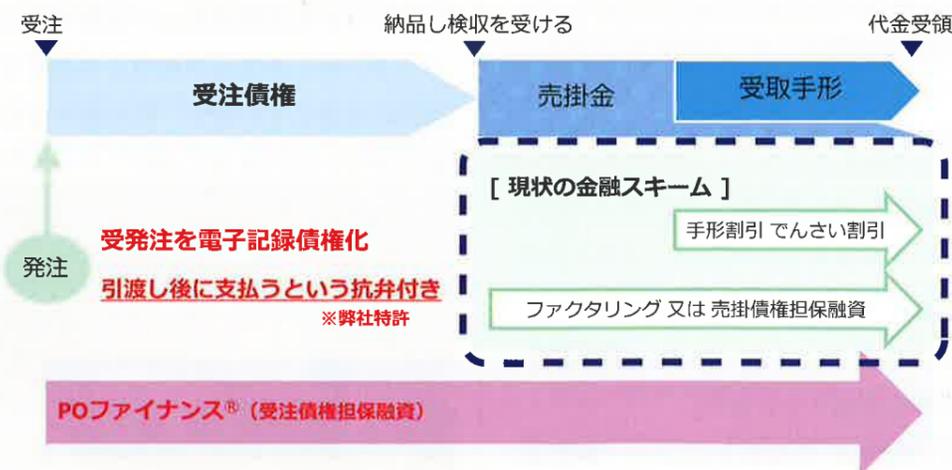
## 本誌3月号の抜粋

POファイナンス®とは、受発注書を電子記録債権化することにより、従来は困難であった受注時点からの債権担保融資が可能になる世界初の取組みです。運転資金が最も必要な仕掛中の資金調達が容易になります。

POファイナンス®を利用することで、必要な運転資金の借入れが容易になり、売上増加や手元資金の確保につながります。また、余裕資金により、研究開発・システム・設備投資等への投資余力が生まれるほか、優秀な人手の確保や働き方改革をはじめとした経営改善への対応も可能になります。

## 【POファイナンス®のイメージ図】

### 電子記録債権ソリューション POファイナンス®(Purchase Order Finance)の概要



←この期間が導入メリット→

## 導入モデルケース

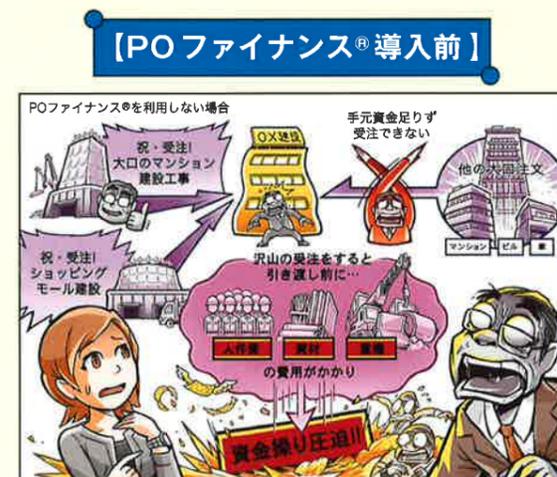
### 1. 企業概要

A社 (建築工事業)

売上高8億円 従業員数35名 資本金5,000万円 主な工事：建築一式、とび、土工、コンクリート

### 2. 当社が抱えていた課題

- 受注は大幅に増加しているものの、受取債権と支払債務とのサイトに大きな開きがあることから、資金繰りが厳しくなりがち。手元資金も手薄な状況。
- 工事実績があることから受注は好調なもの、受注後の運転資金が足りず、資金繰り面から受注を断念せざるを得ないケースがある。
- 多額の運転資金が必要となることから借入金依存度が高く、金利の支払い負担が重い。



## 【POファイナンス®導入後】



### 3. POファイナンス®導入後の改善項目

- ✓担保になるような資産がないなかでも、受注書を担保にして資金調達ができることから、資金繰りに対する苦労が大幅に少なくなった。
- ✓借入金額が大幅に少なくなることから、金利の支払い額が減少した。
- ✓急な受注にも対応できるスピーディーな資金調達が可能となった。
- ✓成長資金の確保により受注が増加。経費削減との相乗効果により収益力が向上したことから、経営資源への投資額が増加した。

### 4. POファイナンス®の導入について

POファイナンス®は、7月の本格開始に向け、受付を開始しています。取り扱い金融機関については順次取り扱い事業者のホームページに掲載予定です。導入に関しては、該当金融機関ないしは取り扱い事業者までお問い合わせください。

#### 【取り扱い事業者等】

東京都港区虎ノ門1-12-9 スズエ・アンド・スズエビル6階 TEL: 03-5510-8077

Tranzax 株式会社 代表取締役社長 小倉隆志

電子記録債権法51条に定める電子債権記録機関の指定 特許第6140909号

URL: <https://www.tranzax.co.jp/company/>

2016年7月に国から指定を受けた中小零細企業に真に役立つ電子記録債権を目指す企業。当社サービスを利用している企業は約580社、うち上場企業約30社。「POファイナンス®」は、中小零細企業の経営改善や取引改善を唯一最大の目的としている。それを実現するための道具の一つとして電子記録債権を用いるものであり、中小企業等を含めた事業者が満足できるサービスの提供を最大の目的として事業を展開している。